

ヘルスリテラシーを高める援助例

	学童期	思春期	青年期
医療・健康情報ニーズの把握と健康教育	- 病気・治療についての認識を確かめ、適切な病識が持てるようにします - セルフケアについて理由や身体の仕組みを加えて説明します	- 病気・治療についての認識を確かめ、意識決定に必要な十分な病識を持てるようにします - 子ども本人がミライトークをつけるように支援します - 成人後の医療費の経済支援、公的支援、医療保険について、情報収集を始めます - 性・生殖に関する教育・相談の必要性について確認する（プレコンセプションケアを参照）	- これまでの診療情報をまとめたものを自分でもち、管理します - 経済的に自活できる方法を探します - 公的支援の受給や医療保険加入について行動に移れるよう情報を収集します
セルフケア能力・自立した受療行動の育成	- 手洗い・うがいなどの一般的な保健行動についての教育を実施します - 病気・治療に関連したセルフケアについての認識についてアセスメントします	- セルフケアや治療・生活処方についてのアドヒアランスを確認します - 子ども本人が次回の受診日時を決定し、医療者と相談できるようにします	原疾患の診療科以外の医療者に対して、治療歴を説明し、望む治療が受けられるようにします
意欲・動機・能力を高める活動	- クラブ、習い事など本人が熱中できるものを探します - 将来像についてイメージさせるような会話をもちます	- アルバイトやボランティア活動等に参加できるよう支援します - サポートグループを紹介し、参加できるように支援します	サポートグループにパートナーや親しい友人と共に参加できるようにします
医療者とのコミュニケーション能力の育成	- 医療者に、親を介さずにコミュニケーションがとれるように援助します - 意思決定の質の良し悪しを、本人自身が体験できるようにします	新たな意思決定が必要となった時に、情報入手、情報の分類整理、比較検討、意思決定についてまず子どもが十分に考えや気持ちを表明できるように支援します	意思決定の場面では、成人した子どもがどの程度家族を必要としているか見極めて関わります